

四、帝國主義教育反対のための斗争、日本大衆党は迫りつゝ、ある帝國主義教育の停止のたみに安心、準備の減少、帝國主義的教育の廃止等、平和運動が無産階級の手に依つてのみ逆行されることを徹底せしめなければならぬ

準備減少 帝國主義的教育反対 國民外交の確立 対人絶對非干涉

植民地の自治 此れ等の諸運動は全て大衆的運程に於て大衆の動員を以て其常不斷に行はねばならぬ。

四 日本大衆党の指導精神

日本大衆党は一向の運程的の政党ではない、それ自身が発展に依つて現存政治秩序の根本的^{根本的}を逆行せんとするまた逆行を認識しつゝ、ある政党である、従つてそれは、天以外に存する組織に依つて指導せらるべきものに非^非して、それ自身^{自身}の指導部を確立し、独自の指導方針を有するものである。

日本大衆党は、客観的状況の詳確なる分析の上、合法的な大衆政党として立党しつゝ、ある。蓋しこの運程に於て無産階級の斗争力を最も博大にし、強烈化することを得るとその確たる信念を有するからである。従つて、合法主義に立脚する組織に於ては火線に對する。

日本大衆党の指導方針
以上の政策を遂行し、以上の指導精神を生かすために、日本大衆党は各面の組織方針を次の如く決定せんとする。

一、主体としての党の拡大。斗争のためには先づ主体の完成はなされねばならぬ。

①党の統制の確立 ②党務展開の確立 ③言論機關の確立 ④労働組合、農民

組合の強化とそれとの連絡機關の充實 ⑤財政の確立

二、当面の組織方針。主体の完成は日た斗争を通じてのみ可能である。客観的状況と呼応しつゝ、次の組織的任務を遂行せねばならぬ。

①対文的斗争より不組織分野の組織化への転換 ②大工場労働者の組織 ③小作主連帯動に依る農民組合の政治化 ④小市民獲得への積極的進出 ⑤聯合斗争と大衆的斗争の連繫